

昨年度の「指導改善プラン」の検証(成果と課題)

【成果】 昨年度の指導改善プランにおいて、各教科で主体的な学習態度の育成と知識・技能の定着に向けた取り組みが進められた。特に、社会科では社会的事象への関心を高め、国語では読む力の育成、数学では基礎基本の定着に一定の成果が見られた。また、理科・英語を含むすべての教科で、生徒の学習意欲の向上と思考力・表現力の強化に向けた工夫が実践されている。

【課題】 しかし、個別指導の充実、特に学習が遅れている生徒への継続的支援体制の構築が課題として残っている。また、ICT活用による授業改善や、家庭学習習慣の定着においても、より一層の工夫と改善が必要である。今年度は、これらの課題解決に向けた取り組みのさらなる充実が求められる。

全国学力・学習状況調査、達成度調査等及び生徒の学習状況から見た成果と課題 ○成果 ▲課題

	第1学年	第2学年	第3学年
国語	○説明的文章の学習においては、論理的思考による課題解決を図る姿勢が見受けられる。 ▲文学的文章(小説・随筆)の学習においては、客観的に文章を読む機会を設け、描写に基づいて読解する力を育成する必要がある。	○説明的文章の読解にあたって、論理的に考え、粘り強く問に向き合う姿勢が見られる。 ▲国語の自主学習意識が低く、言語知識の定着が徹底されていない。漢字や慣用句、古典常識の習得を意識させる必要がある。	○評論文の読解と記述を定期的実施し、論理的に文章を読む力がついてきている。 ▲漢字の定着などには生徒によってばらつきがある。語彙と併せて継続して指導が必要である。
社会	○社会的事象・専門用語に対し、理解しようとする意識は高い。教科書に書いてある知識だけでなく、資料集やICT機器を活用して新たな知識を得ようとする姿勢も見られる。 ▲得た知識同士をつなげることや実社会との関連を考える機会が乏しい。生徒自身が主体的に知識を関連づける意識をつけていく必要がある。	○社会的事象・専門用語に対する理解度は高い。協働学習などにおいても、その知識を活用して、他者の意見に対して根拠をもって批判するなど、「議論」をすることができている。 ▲それぞれの社会的事象・用語が、私たちの生活にどのような影響を与えているのかなど、その事象・用語に関する「深い理解」は、不十分である。	○社会的事象・専門用語に対する理解度は高く、ICT機器を活用して知識の定着を図ろうとする主体的な姿勢もみられる。 ▲全国学力・学習状況調査において、獲得した知識がどのように実生活に結びついているかという質問項目(33・44)に対して肯定的な回答の割合が全国平均を下回っている。そのため、教科書で得た知識を応用するために、教員主導の働きかけが必要となる。
数学	○計算・基本問題は、毎週の課題や小テスト等の実施により得点率が90%と高い。 ▲文章題は、記述問題の書き方の指導や小テストを実施しているが、定着はできていない生徒が多い。	○基本的な計算は毎週の課題のほかにも、小テスト等の実施により、全体的に解けるようになり、得点率も高い。 ▲関数等の抽象的な考え方の問題や証明問題といった論述系の問題では手が動かない生徒が多い。	○授業時間以外にも定期的にレポート課題を課して、演習量を増やすことで、少しずつ実力があがってきている。また、応用問題を多く扱い、物事を発展的に考える力が伸びてきている。 ▲思考・判断・表現で説明を求められるような問題の正答率が低いことや無回答の割合が高いことが課題である。
理科	○実験において、多くの生徒が実験に主体的に関わり、手順を確認しながら手際よく作業を進めたり、意欲的に器具を操作したりする姿が見られる。話し合い活動でも積極的に意見を出し合う姿勢が見られる。 ▲得られた結果から規則性を見出したり、根拠をもって考察したりすることに課題を残す生徒もいる。	○実験・観察において、疑問を解決するために主体的に取り組む姿勢と、意見や結果を発表・共有し、自らの知見を広げようとする姿勢が見られる。 ▲実験操作の熟練度に個人差があり、思考・判断・表現に技能が追いつかない生徒が散見されるので、実験班の中で相互にフォローできる環境づくりが今後必要である。	○実験においては、既習事項や日常生活での経験を中心に仮説を立て、検証し、考察する力を育成することを重点的に行っている。実験レポートなどからもその成果が感じられる。 ▲発展的な課題に取り組んだ時の、発想力に課題がみられる。年度末に向けて課題解決の機会を増やし、創造性を養う。
英語	○スピーキングおよびライティング活動において、間違いを恐れずに自身の言葉を用いて表現しようとする姿勢が多く見られる。 ▲文法の定着に課題がある。学習した文法事項を使用し活動を行った後、既習事項について整理を行う時間が必要である。	○スキットやスピーチ等の発表活動に意欲的な生徒が多く、間違いを恐れずに自身の言葉を用いて表現しようとする姿勢が多く見られる。 ▲語彙習得に少々課題が見られる。単語帳を用いて読んで書く活動を充実させる。文法や本文導入の際に「気付き」を多く与え、理解に繋げる。また、定着が遅れている生徒には個別に指導する。	○自身の気持ちや考えなどを整理しては発表する活動を多く取り入れたことにより、自身の言葉を用いて表現し前向きに相手に伝えようとする姿勢が多く見られる。 ▲表現しようとする意欲が高まったことにより、文法や語彙の習得に対する意欲が高まってきているので、機会を失わぬように導入を行う。

授業改善の方針

国語	論理的な文章の読解には成果が見られる一方、文学的な文章の読解、漢字・語彙といった言語知識の定着に課題が見られる。授業冒頭での帯学習や定期的な小テストを継続し、言語知識をスモールステップで確実に定着させていく。文学的な文章の指導では、文章中の描写や根拠に基づいた読解・表現活動を重視していく。また、ICT 等を活用した振り返りや共有の場面を取り入れて主体的に学習に取り組む態度を高めるとともに、生徒の習熟度に応じた丁寧な支援を行うことで、生徒の着実な学力向上を目指す。
社会	今年度は、協働的な学びと個別最適な学びの実現をさらに推し進める。高い学習意欲を土台として、協働的なグループ活動や振り返り・表現活動を充実させ、自ら問いを立て探究する学習へと発展させる。また、学習へのモチベーションを一層高めるため、社会とつながる課題に取り組む場면을積極的に取り入れる。一方で、基礎学力の定着が十分でない生徒には、理解度を確認しながら復習や表現の機会を丁寧に設け、個々に応じた支援を行うことで、着実な学びの積み重ねを図る。
数学	基礎学力の向上は見られるものの、下位層の引き上げは今後も課題である。生徒のモチベーションを維持しながら、スモールステップで理解を深められるように指導していく。小テスト、単元テストを授業内で行いながら、生徒の理解度を定期的に確認していく。習熟度別に授業を行っているので、上位層には発展的な内容を取り入れ、中位層には教科書レベルの応用問題を確実に解けるように指導していく。生徒の理解度に応じながら、解説と演習をバランスよく取り入れて授業を行っていく。
理科	仮説構築能力と論理的思考力の育成において一定の成果が見られている。生徒は既習事項をもとに仮説を立て、意欲的に実験に取り組む姿勢が定着してきた。一方で、実験結果からの考察力には課題があるため、レポート添削時に重点的な指導を行う。また、基礎知識を実践的に活用できない生徒も見られるため、個別指導と学習環境の整備を進める。発展的課題における発想力向上のために、年度末に向けて多様な課題解決体験を増やし創造性を養成する。これらの取り組みを通じて、知識の定着と活用、論理的思考と創造的発想の両面から生徒の科学的思考力を育成していく。
英語	質問事項 70、71 では英語の授業や学習に関して前向きな意見が多い中、質問事項 69 では英語は得意であるという自信をもっている生徒がやや少なくなっている。これを受けて、各学年において学習した文法を使用することが目的のスピーチやプレゼンテーションなどを実施し教科書の表現の定着を図る。その際に、言語が使用される場面や状況を特に意識させ、生徒の記憶に残るよう、表情や声のトーンなどを工夫させる。文法・語彙については毎年の課題であるが、単元ごとに単語テストや文法確認のテストを行ったり、目標文法を使用させる英作文を行ったりする。また、共通エラーを拾ってクラスで共有するなど工夫をしていく。
音楽	音楽表現の多様性に触れながら、生徒が「音楽的な見方・考え方」を身につけ、技能や思考力・表現力を育てる授業づくりを進めている。歌唱では、日本歌曲や合唱曲に加え、他国の歌曲も扱い、言語と音楽の関係に注目することで表現力の幅を広げられるように指導していく。合唱では、グループでの対話や振り返りを重視し、協働的に課題を解決する力を養う。鑑賞では、日本の伝統音楽や世界の音楽など多様な文化に触れ、「どのような音楽からそのように感じたか」を言語化する活動を通して思考・表現力を高めている。言語化することが難しい生徒には、表現の語彙集などを配布し、自分が感じた言葉を選ぶようにしている。器楽では、箏曲を中心に、日本音楽の音を体感する学びを行っており、他の和楽器や西洋楽器との比較を通じて多角的な視点を育成する。今後もワークシートや発表活動を活用しながら、主体的・対話的で深い学びを促進し、「感じる・考える・伝える」音楽の力を育てていく。
美術	美術の授業を通して自身について考え、意欲的に作品制作に取り組むことができている。また、デザイン分野では課題解決の方法を模索し、作品制作に繋げる力も身につけてきている。鑑賞活動においては、作品との出会いを通して鑑賞を深め、自分の言葉で表現することができる生徒が増えてきた。一方で、根拠をもって自分の考えを表現することに課題がある生徒も見受けられる。今後は、多様な作品との出会いの場を増やし、作品を構成する要素を見付け、感じたことを関連付けられるよう指導していく。具体的には、「思考力・判断力・表現力等」を高めるためのワークシートの工夫や、対話型鑑賞の機会を設け、自分なりの解釈ができるよう環境の充実を図る。また、「学びに向かう力・人間性等」を育むため、個々の感性や理解度に応じた声かけや指導を行い、表現する自信を育てていく。
保健体育	男女共修の中で生徒同士での教え合い活動が増え、単元を問わず思考・表現する時間が増えている。特に昨年度に比べゴール型・ネット型・ベースボール型の各領域において十分な学習時間と活動量を確保できたため、今後も継続して取り組む。
技術	実験・実習を主体とした授業展開により、生徒の主体的・対話的な学びを推進する。グループ学習や発表活動を取り入れ、協働による問題解決能力を育成する。技術分野では、プログラミングや ICT スキルと製作実習を関連させ、情報活用能力を育てる。技家とともに、個別評価と振り返りを重視し、生徒一人一人の成長を促す指導に努める。